



# さとのかぜ

NO. 158

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

7月号 2008年7月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

## 今年はきれいな花が見られそうです



ハスの花の命は  
4日間。3日目に満開となり、  
4日目には散ってしまいます。

去年は、楽しみにされていた方々をがっかりさせてしまったハスの花ですが、今年は期待できそうです。現在、花ハスの品種は50～60種ほどですが、園芸文化が盛んだった江戸時代には、なんと100を数える品種があったとか。ハスは、『古事記』に初めてその名がみえ、『万葉集』には4首が詠まれています。ところでハスといえば、中将姫が蓮糸で織ったと伝えられる当麻寺(奈良県)の「根本曼荼羅」。じつはハスの繊維ではなく絹糸で織られているそうです。が、もし事実ハスの繊維が使われたとすると、30センチ四方の布を織るのに、約113トンもの花茎を要したことになるとか!!

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 6月のセンター行事

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

- 『ゲンジボタル観賞の夕べ』1日(日)
- 『磯の生き物をさがそう』中止
- 『海辺の植物を見に行こう』中止

### 《ゲンジボタル観賞の夕べ》

前日の大雨で、開催が危ぶまれた第2回「ゲンジボタル観賞の夕べ」は、無事行うことができました。参加者は19名。第1回観賞の夕べは、“ほたる祭り”の開催中に行われたため、道の要所に提灯の明かりがともされていました。今回は、明かりは取り払われ、薄闇の中での鑑賞会でした。おかげで、「こどもの頃のホタル狩りを思い出した。よかった」という参加者からの声も聞かれました。

ゲンジボタルの生息条件は、卵を産み付けられるコケの生えた水際があること。幼虫期には、



餌となるカワニナ(写真)が豊富な流れのある川があること。さなぎの時期は、羽化するために

川から登れる岸や中洲などがあること等々、豊かな自然環境が必要です。

鑑賞会が行われる山田地区は、これらの条件に加え、農薬の空中散布を行わない、ホタルの出る田んぼの周辺の草刈を控えるなど、地域の方々の心遣いにささえられています。

川から岸に上ったゲンジボタルの幼虫は、50日後に羽化します。センターでは、幼虫が岸に上る姿を同地区のボランティアの方に確認していただいています。観賞会当日にホタルが見られるか否かを確認するためです。

ところで、6月から8月にかけて、センターの周辺にはかわいいホタルブクロの花が見られます。

### センタートピックス 7月

#### <アイガモがやってきました>



昨年からはじめた「アイガモ農法」は、除草剤に代わってアイガモが田んぼの草を食べ、しかもその糞が稲の肥料となるといって、一石二鳥の環境にやさしい農法です。

このアイガモ農法で育てたもち米を使った餅つき行事では、参加者から、例年以上に「美味しい」と評判でした。

そこで、今年はもち米だけでなく、うるち米の田んぼの一部にもアイガモ農法を取り入れることになり、6月15日に13羽のアイガモがセンターにやって来ました。

アイガモたちは、到着するやいなや元気に田んぼを泳ぎ回り、田辺職員の話では、草はもちろんのこと、「小さなザリガニまで捕まえて食べていた」とか。

稲の穂が出る7月半ばまで、二つの田んぼを歩き来する、可愛いアイガモたちの姿がみられます。見に来てくださいネ!



ヤマホタルブクロの花

釣鐘状の花の中にホタルを入れて遊んだところからその名がついたとか。白や薄紅色の花弁を透してほわほわと光るホタルの灯火……。闇の深かったその昔、ホタルの灯は子ども達の心にも、やさしい明りをともしたことでしょう。

今の子ども達はもちろんのこと、次代の子ども達にも、ホタルが舞う、豊かな自然環境があって欲しい。「ゲンジボタル観賞の夕べ」を通してそう心から願いました。 (大東 悠子)

## 《海辺の植物を見に行こう》

残念ながら雨で中止となった「海辺の植物を見にいこう」の下見の様子をお伝えします。

講師は、植物の観察会でいつもお世話になっている千葉県立中央博物館友の会の野口昭造先生。場所は、太東漁港近くにあるハイキングコース。漁港を出発し、小高い森を越えて、海岸沿いに漁港に戻ってくるという約2時間のコースです。海辺ならではの植物が数多く見られました。

斜面沿いや岸壁には、白い花をつけたハマボウソク、砂浜には同じく白い花のテリハノイバラが目立っていました。ハイキングコース沿いにイヨカズラ(スズメノオゴケ)、砂浜にはイチョウの葉っぱの形をしたハマイチョウ(ハマニガナ)などもありました。砂浜では、ハマボウフウ(写真)も白く小さな花をつけ始めていました。ハマボウフウは若芽が食用になるため、乱獲されて今では数が少なくなっています。



海辺は、潮風や強い日差しといった過酷な環境条件が整っています。ですので、そこに生きる植物たちは、葉を厚くしたり、毛をたくさんつけたりして、上手にその環境に適応しています。人里近くの植物とはまた違った形や性質に、おもしろさがあります。これからの季節は、スカシユリ、秋にはイソギクなどが見ごろを迎えます。海辺に行かれた際には、そんなしたたかな植物たちにもぜひ目を向けてみてはいかがでしょうか。(堺 勇人)



サシバ  
(タカ科)

今月の

## 見い~つけた!

センター付近で「ピッキィ〜」という鳴き声をよく聞くようになりました。茶色いカラスぐらいの大きさのタカで、毎年夏に南の国から渡ってきます。田んぼでカエルやヘビ、トカゲなどを食べます。電信柱にも止まるので、間近で見られることもあります。「ピッキィ〜」と聞こえたら、ぜひ周りを探してみてください。(堺 勇人)

**あなたの見つけた生きもの、教えてください!**

当センターに来られて、気になる生きものを見つけたら、**ぜひ教えてくださいネ!**

## 和泉-日在浦だより アカウミガメの産卵(2008年7月1日)

[今年最初の産卵]



海側にアカウミガメ往復の足跡(6/15)  
手前の産卵巣に囲い作業をして待つ

筆者は6月15日早朝、今年度最初のアカウミガメ上陸の足跡を発見し市役所宿直に通報しました。いすみ市ウミガメ保護監視員・山口親忠さんと保護囲いをして待つことしばし、いすみ市実方伊三郎農林水産課長と水産班職員が到着し、産卵を確認、保護柵の再整備、保護プレート設置が行なわれました。産卵巣は三軒屋駐車場に近く人通りが多いため、保護柵は二重に大きく設置されています。

### [2回目産卵巣は高所に移設]

今年2回目のウミガメ上陸の足跡は6月22日、日在玉前神社前の海岸で近くの住民により発見されました。市水産班よりの連絡で、雨中の夕刻 筆者は産卵の確認に立ち会いました。産卵場所が低い地点で海が荒れると冠水するため、課長と水産班職員は直ちに全部の卵を孵化に充分な高所に無事移設しました。なお今年アカウミガメの



2回目産卵巣は2m高い台地へ移設  
市水産班による雨中の作業(6/22)

卵が昨年を大きく上回っているとのこと。

### [砂浜の潮だまりで泳ぐイワシの稚魚]



砂浜の潮だまり(日在浦6/19)  
サメの稚魚も時折見られる

このところ日在浦では、大潮の干潮の際、潮間帯(満潮線と干潮線の間で1日のうちに陸上になったり海中になったりする場所)に潮だまり(Tide pool)ができます。6月19-20日には4cm位のカタクチイワシの稚魚がたくさん取り残され、潮だまりの中で泳ぐ姿を見ることができました。また砂浜に打ち上げられてそのまま日干しになるものも見られました。年々砂浜が狭まってきて、数年前まで60m位あった潮間帯の幅が半減しています。また渚線付近が斜度20度にもなる場合があり、時折段差1.5-2mの浜崖ができた埋まっています。

[ 森谷 淵 (もりや ふかし) ]

# ◎今、いすみでは???

センター周辺で4月に植えられた水田のイネも、ようやく色が濃くなり、1株1株の本数も多くなってきました。ちなみにセンターでは5月4日に「田植え」を行いました。しかし、地温の上昇が足りないためか、例年よりも生育がよくないような気がします。早く梅雨が過ぎ、暑い、じりじり照りつけるような日の光が欲しいものです。

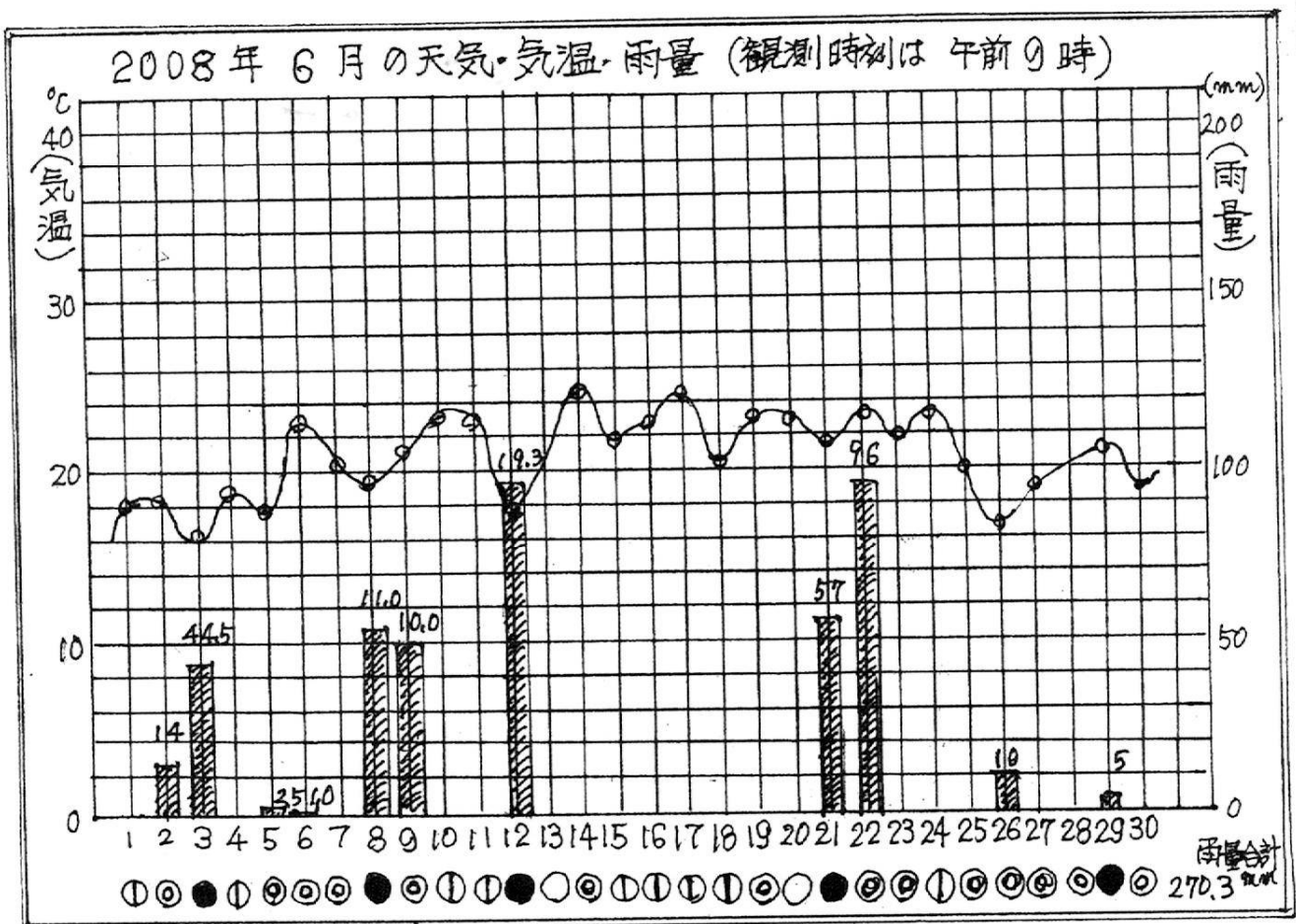
また、当センターでは「花ハス」を栽培していますが、昨年、一昨年と2年続きの不作で、よい花が見られませんでした。そこで、今年の春、各方面の力を借りて、ハスの芽のついた地下茎を譲ってもらい、それを植えました。早く芽が伸び、葉や花芽が多く出ないものかと待ち遠しくしていたところ、ようやく、小さい葉や、細い花芽が見えてきました。7月13日(日)の『ハスの鑑賞会』の時、会場を賑わせてもらいたいと思っています。

トンボで賑わす『トンボの沼』は、今、水面のほとんどを「スイレン科のヒツジグサ」が覆い、あいている水面がなくなるほどになっています。また、白い花が咲きこれからが見頃です。緑の野原の中に白いヒツジがいるように見えるところから、この名が出たという説もあれば、未(ひつじ)の刻[午後2時頃]に開花するというところから、この名があるという説もあるようです。

今、当センターの周辺を歩くと、ヤマホタルブクロ(キキョウ科)、キキョウソウ(キキョウ科)、モジズリ=別名ネジバナ(ラン科)などが見られます。

又、最近、チョウの標本を5~6箱新しく入れ、展示しています。

(芝崎昌彦)



◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇  
**7月の行事案内**  
◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

☆『ハスの観賞会』

参加自由

日時 13日(日)  
7:00~10:00

雨天延期 8/17

場所 センター地区  
生態園(ハス田)



☆『小川の生き物ウォッチング』定員20名

日時 26日(土)8:30~11:30

場所 いすみ市新田川(いすみ市新田地区)

集合 ネイチャーセンター 8:30

<8月の行事予定>

☆『夏の星座を見てみよう』② 定員 20名

日時 2日(土)  
19:00~21:00

雨天延期 8/3

場所 ネイチャーセンター

☆『草木染め体験』 定員20名

日時 3日(日)9:30~15:00

雨天延期 8/17

場所 ネイチャーセンター

☆『トンボの沼のトンボたち』 定員20名

日時 23日(土)8:30~11:30

場所 ネイチャーセンター 雨天延期 8/17

集合 ネイチャーセンター 8:30

**いすみ楊枝**

—千葉県伝統工芸品—

日時 7月20日(日) 9:30~16:00

場所 ネイチャーセンター

講師 高木 守人氏

参加料 無料

内容 楊枝・花入れ・茶杓作り

センターでは、千葉県伝統的工芸に指定されている「いすみ楊枝」を、県内外に広く紹介するために毎月1回、高木守人氏に実演をしていただいております。

次回は、8月17日(日)の予定です。

**9月の行事予定**

『米作り・稲刈りしよう』 定員 40名



7日(日)9:00~14:00 ネイチャーセンター

『竹かご教室』全5回のうち第1回 定員20名

7日(日)9:00~14:00

ネイチャーセンター

\*7月1日(火)より申し込み受け付け開始

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。

\* eメール可(メールアドレス:[info@isumi-sato.com](mailto:info@isumi-sato.com) (@は全角です))

\* 行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

\*「さとのかせ」の定期購読を希望される方は、郵便代として、80円切手12枚、または960円にて受付ます。

◆ ◆ ◆ **利用案内** ◆ ◆ ◆

休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間: 9:00~16:30、入館料: 無料

なお、団体で案内や解説などを希望される場合は、2週間前までにお申し込み下さい。